

「次世代の目録所在情報サービスを考える」

運用：体制の抜本的見直し

---

# 現状の認識

---

- ✖ 大学図書館における経営合理化の要請
  - ✖ 新たな情報資源の出現に伴う業務の多様化
- 目録作成とそれに関連する業務に従来のように  
は人的資源を割くことはできない。
- ただし質を犠牲にすることはできない。

# 問題領域：議論のポイント

- × 各参加館における「**目録作業負担の軽減化**」
- × 大学図書館界全体で見た場合の「**目録作業負担の合理化**」
  - + 現在のNACISIS-CATの解体的見直しではなく、大学図書館間での書誌情報基盤の共有を前提とした議論である点に注意。

# 目録作業負担の軽減化

- × 「発生源入力」により入力作業の軽減
  - + 出版社、商業MARC作成機関によって作成される書誌情報を今以上に活用することにより、重複作業をなくす
- × 人力によらず質の向上を計る
  - + 全国書誌作成機関による質の高い目録の成果を効率よく取り込むことにより、主題アクセス、著者名典拠コントロールの質の向上を期待

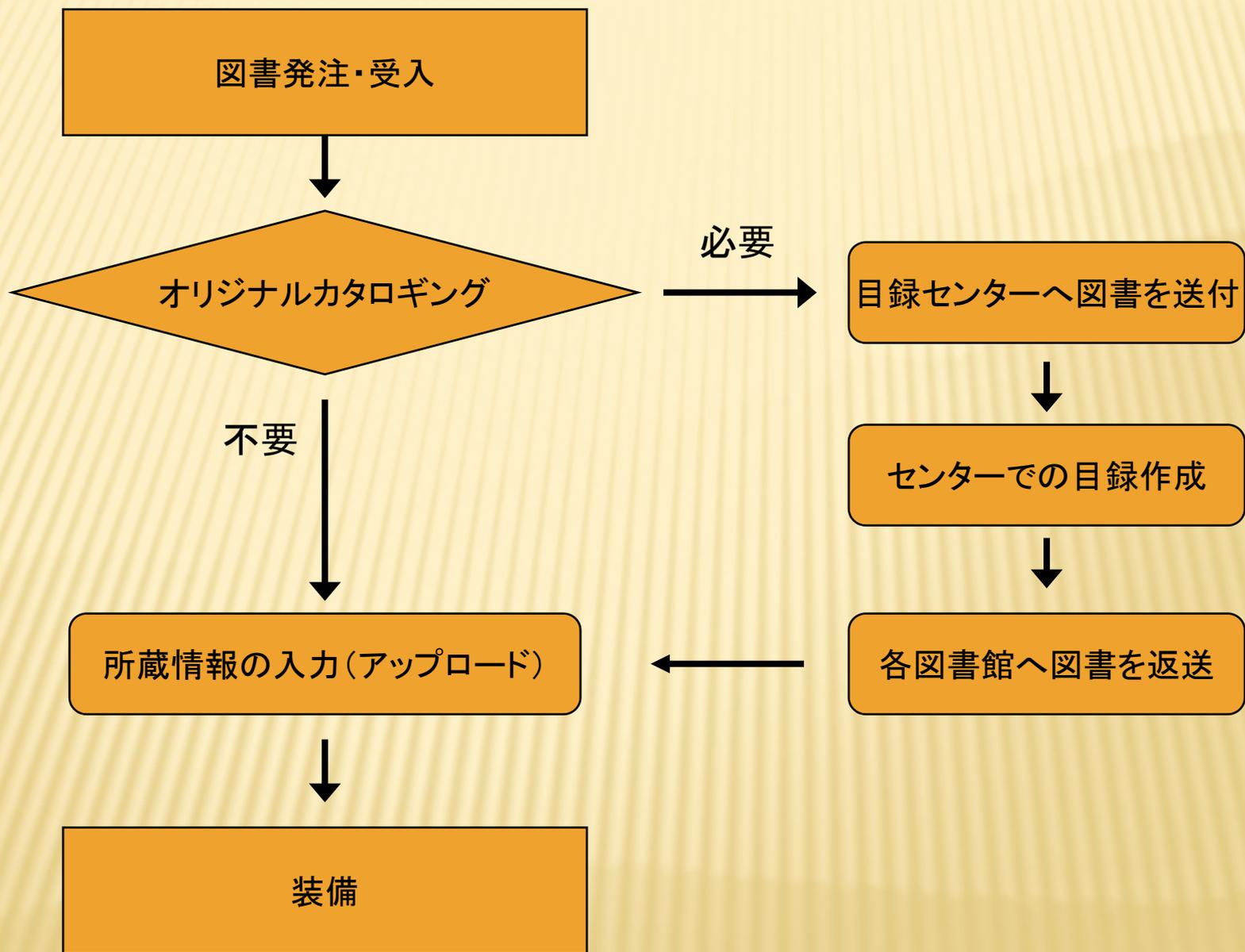
# 目録作業負担の合理化

- ✖ オリジナル目録作成は今後も不可欠
  - + 大学図書館は目録作成の責任を放棄してはいけない
- ✖ 1,000以上のNACSIS-CAT参加館全体で書誌調整を行うことの非合理性
  - + 書誌調整をなるべく発生しないようにするしかない
  - + 「参加館の二極化」という現状

# 目録作業負担の合理化

---

- × 「目録センター館」構想：オリジナル目録作業を行う図書館の集中化
  - + 目録の質の維持
  - + メタデータの実務的な運用スキルを持つ図書館員養成の場を持つ必要性



# 目録作業負担の合理化

---

- × インセンティブモデルの導入
  - + 書誌新規作成への貢献度をベースに何らかの見返り／負担
- × 参加機関のレベル分け
  - + すべての館が書誌調整に参加する必要はない

# 今後検討すべき課題

- × 和図書以外の図書についての「発生源入力」についての可能性の検討
- × 品質の改善の方策についての検討
- × 「目録センター」「インセンティブモデル」「レベル分け」についての実現可能性の検討
  - + これは大学図書館自身の問題である。皆さんがどう考えるのかにかかっている。